サイズ約 23.5cm　制作／髙森春恵

結び兵庫　むすびひょうご

江戸時代中期から後期にかけて流行したもので、根で一束にした髪を折り曲げ、残りの髪をぐるぐると周囲に巻き付けただけの髪。正式ではなく、あまり上品とは言えない形。品川の下級女郎が結い始めた、伝法で崩れたスタイル。

天明七年（一七八七）山東京伝作『古契三娼（こけいのさんしょう）』『ま、品川なんぞじゃァ、むすび兵庫がはやつたよ。まへどくら田のひめづるといった女郎しゆがすきでい（結）ったっけ。』吉原・深川・品川の女郎上がりの女三人が髪型について会話をしている。

兵庫髷の輪が小さく、輪の周りにも髪が巻きつけてあるので、巻き貝のように見える。江戸時代後期には、伝法肌の女房などの間でも結われた。

品川の客にんべんのあるとなし（侍と寺）
品川の衣桁股引（いこうももひき）なども掛け（股引をはいた男も客にくる）

品川宿の客は、芝山内の僧侶が五分、薩摩屋敷が三分、町人が二分であるといわれるほどに、僧侶や武士が多かったのが特徴